# 提言書構成案（当日修正）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 章No | 章名（仮称） | 内容概要／狙い | 主に使う資料・根拠 | 留意点 |
| 0 | 表紙・要旨（概要版） | 提言書全体の結論とポイントを示す。 | 本書の結論、主要提言を簡潔に箇条書き | 要旨は後述される。本文との整合性をチェック。 |
| 1 | 背景と目的 | 社会環境変化（少子高齢化、価値観多様化、コロナ後の影響等）と駒ヶ根市の現況と課題。「なぜ今、在り方検討なのか」 | 検討会のHP概要、検討会設立趣旨、アンケート冒頭分析 | 共感と課題意識を持たせる記述。長くなりすぎない。 |
| 2 | 検討会の運営と経過 | 委員構成、開催回数、主なテーマ変遷、フォーラム開催、視察、議論方法等。 | HP掲載「検討会の経過」、会議録、スライド | 年次／回次で要点を整理。 |
| 3 | 資料分析と現状把握 | アンケートのクロス分析、地域・世代差、課題抽出など。 | 市民アンケートPDF、課題整理資料等 | グラフ・表で可視化。数字羅列に注意。 |
| 4 | 委員議論と主要論点の整理 | 検討会の主張・論点（役割再定義、若者参画、DX等）と利害関係整理。 | 会議録、フォーラム発表、グループワーク結果 | 賛成・異論・条件付き意見に分類すると説得力向上。 |
| 5 | 提言の方向性（基本方針） | 地域・組織を変える理念・戦略の骨格（例：伴走型支援モデル等） | 第4章の議論を基に記述 | 枠組みとして明快・一貫性ある記述に。 |
| 6 | 具体提言（施策案） | 短期・中期・長期に分けた具体施策群。目的・主体・KPI等を含める。 | 各論点の議論、フォーラム案、先進事例 | 目的、実行時期、予算感などを明記。 |
| 7 | 実施体制と運営スキーム | 実行・監督・レビュー体制。検討会の後身組織設計も。 | 検討会・フォーラム議論、他地域事例等 | 責任の所在、継続性、財源手段を明記。 |
| 8 | リスクと課題・対応策 | 反発・制度制約・人的資源不足等のリスクと対応策。 | 懸念点や異論、アンケート自由記述 | リスクを正面から扱うことで信頼性向上。 |
| 9 | 実証・評価計画 | 試行導入、評価指標、モニタリングと改善ループ設計。 | 第6章施策案を踏まえ設計 | 「やって終わり」にしない仕組みを。 |
| 10 | コミュニケーション・普及戦略 | 住民説明、広報、ワークショップ展開案。 | アンケート反響、検討会市民発言 | 納得と理解を得る広報戦略を含める。 |
| 11 | 結論・今後の展望 | 提言全体のまとめと将来への呼びかけ。 | 要旨と整合。 | 熱意と論理のある締めくくり。 |
| 付録 | 付録・資料編 | アンケート原票、会議録抜粋、先進事例、用語集等 | 元資料、検討会資料等 | 本文を煩雑にしないため、補足資料は付録に。 |